令和7年度　地域貢献推進奨励金事業

2026年2月13日（金）島根県立大学浜田キャンパス
縁結びフォーラム

# 地域の自然資源を活用した地域づくりの取り組み

## 「地元学」による地域資源の発掘と活用

島根県立大学地域政策学部　豊田知世
島根県立大学地域政策学部地域づくりコース3年
佐藤健太・進藤渚叉・橋本大輝・前田明花・森原明音・山本怜果・横井涼

### 目的

〇地域資源を見直す
「地元学」は吉本哲郎氏が提唱し、国内外で実践されている地域活性化の手法である。これは、自らの足元から地域を見つめ直し、固有の価値を再発見することを目的としている。 本プロジェクトでは、大田市池田地区を対象に、大学生と地域住民が協働で「地元学」を実践する。外の視点を持つ大学生が介在することで、地元では見落とされがちな資源を掘り起こし、その成果を地域へ還元（公表）する。これにより、地域資源の再評価を促すとともに、それらを活用した次期農業計画を共創するためのワークショップを展開し、実効性の高い地域計画の策定を目指す。

### 対象地域

島根県大田市池田地区
・大田市中心部と三瓶山の中間地点に位置する。人口は約500人弱（2020年時点）。
・「三瓶そば」の産地： 三瓶山の噴火活動によって堆積した「黒ボク土」という火山灰土壌は、水はけが良く、そば栽培に非常に適している。この地特有の冷涼な気候と厳しい寒暖差が、そば本来の香りと甘みを強く引き出し、三瓶そばの産地となっている。

### 農村RMO：地域と農業を一体で守る仕組み

農村RMO：人口減少に直面する地域において、自治会（生活支援）と営農組織（生産活動）を統合し、地域全体を一つのチームとして運営する組織。
大田市池田地区は、この仕組みを通じて、三瓶山の自然資源を活かした持続可能な農業と、住民の暮らしを支える体制づくりを同時に進めている。
本プロジェクトは、このRMOの核となる「将来の農業ビジョン」を作成するために、まずは住民自身が地域資源を理解することを目的に実施する。

### 池田地元学の実践

・予備調査準備　2025年4月―7月
・地元学の実践　2025年7月19日～20日

趣旨説明と自己紹介

資料収集

現地での調査

発表資料の作成

地域住民の方を招いて池田地元学の発表会

地域住民からのフィードバック、気づきなど、意見交換会

自分たちの地域の資源や魅力を再発見できた。また、この場所に若い人が魅力的に感じる資源がたくさんあることに気が付いた。
今回気が付いた資源を活用しながら、持続的な視点で農村経営計画を作っていきたい。
まずは、できるところから始めていきたい。
住民

学生
とめどなく地域のいろんなことを教えてくれて、この地に誇りを持っていることがわかる。この地のスペシャリスト。
とても楽しそうに仕事や生活をされている。顔の見える関係で支えあっている暮らし方は理想的と感じた。
これから自分のキャリアを考えるにあたっては、どのように暮らすのが幸せなのか、ということも考えていきたい。

## 放置される柿を活用した「柿酢」の商品化

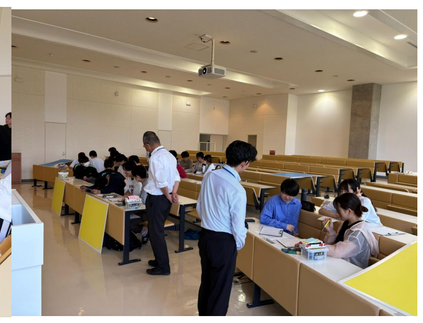
島根県立大学地域政策学部　豊田知世
島根県立大学地域政策学部地域づくりコース2年
太田凌輔・藤原　拓海

### 目的

〇地域資源の商品化：廃棄農作物を活用した商品開発
島根県浜田市田橋町は、かつて西条柿の主要な産地であったが、現在は高齢化や人口減少に伴い、収穫されず放置された「放置柿」の増加が課題となっている。本プロジェクトでは、地域の未利用資源である柿を収穫・醸造し、「柿酢」を商品化する。これまで見過ごされてきた自然資源を有効活用することで、持続可能な地域づくりと新たな経済循環の創出を目指す。

### 取り組み概要

〇ファシリテーション研修
・様々な関係者の方と意見交換を行いながらプロジェクトを実施するため、西部社会教育研修センターの協力のもと、研修会を実施。


ファシリテーション研修会の様子

〇柿酢の生産
・柿酢はたばせ屋で製造。たばせ屋は、浜田市田橋地区の交流施設であり、代表は小川泰昭さん。小川さんは浜田市、島根県産業技術センター、および大学と連携し、放置されていた西条柿を活用した「柿酢」を開発、製造。

〇大学との連携
・これまで豊田ゼミとたばせ屋では、柿酢を用いたメニューの開発や、柿酢利用による食品ロス削減の効果の検証等を実施してきた。
・今年度は、柿酢の商品化を目的に、デザインやネーミング考案、チラシの作成等を実施。大学生や関係者へのアンケートを実施し、決定。

小川さんと打合せ

完成品

試飲会の準備

〇柿酢の販売
・2025年7月～たばせ屋にて販売開始。1本800円（税込み）

## 耕さない、「土を育てる」不耕起農業の実践

島根県立大学地域政策学部　豊田知世
同　地域づくりコース4回生　萩原琴乃
同　地域づくりコース2・3回生　プロジェクト研究IA・プロジェクト研究II豊田ゼミ

### 目的

土を耕さない「不耕起栽培」が、野菜の生育と味にどのような影響を与えるかを明らかにすること。耕さない農業は環境に優しいとされるが、実際に野菜が育つか、そしてその野菜が消費者にとって「おいしい」と感じられる品質になるのか、育成の安定性と食味の両面から検証を行う。

### 取り組み概要

島根大学金子先生を招いての勉強会

実践場所での意見交換

浜田市のBUY浜田運動と連携

環境経済政策学会シンポジウムで発表